

しまねっ湖



ワカサギ *Hypomesus nipponensis*

CONTENTS

- 特集・冬の特別展…………… 2～3
- ゴビウスのなかまたち…………… 4
- しまねの水辺紀行／シャッターチャンス！…………… 5
- 飼育ノート…………… 6
- こらまたなんたら！／表紙の生きもの…………… 7
- イベント報告／インフォメーション…………… 8



パラエディーネーミング

生きものたちのお名前っ!

名前で得する生きもの 損する生きもの

開催期間 2020/11/18(水)～2021/1/11(月)

今回の特別展は、生きものたちの名前にスポットをあてます。

名前だけでは「?」となってしまうようなややこしい名前の付いた生きものや、どんな種類なのか想像できない名前の生きもの、ちょっと誤解を受けてしまいそうな名前の付いた生きものなど、変わった名前を持つ生きものたちが主役です。

どんな名前の生きものか分かるかな?



どっちなの? ややこしい名前の生きもの

生きものの中には、ややこしい名前が付いているものが数多くいます。例えば「トゲナシトゲトゲ」という昆虫がいます。トゲがあるのかなのか・・初めて聞いた人はどっちなのか分からずややこしいと思うかもしれません。そんな、どっちつかずの名前を持つ生きものは、水の中にくらす生きものにもいます。

Are you アユ?

アユといえば「清流の女王」などと呼ばれる川にくらす魚です。「～アユ」とつけば、やはりアユのなまを想像しそうですが、海にくらす魚の中にヘコアユという魚がいます。みなさんはどんな姿を想像しますか? 海にもアユのなかまがいるんだ～、と思う方もいるかもしれません。でも、その本当の姿は・・・?

ざんねんな名前の生きもの

名前のせいで印象が悪くなってしまう、そんなざんねんな名前の生きものがあります。地域での呼び名、いわゆる地方名でもよくあることですが、そんな名前を付けられて可哀想に、と思うものもいます。

大人になっても…ヨダレカケ

人間の赤ちゃんが「よだれかけ」をしているのは微笑ましい光景ですが、健康な大人の大人が付けているとなかなか厳しい目で見られると思います。

ヨダレカケという名前の生きものは、生まれた時から成熟した後もずっとヨダレカケのままです。いったいどういう訳でこんな名前がついたのか? あたかな視線で観察してあげてください。

いったいどんな生きもの? モヤモヤする!? 名前の生きもの

例えば、名前の最後に「カニ」とついていれば形はイメージできなくても、「カニのなかま」ということはなんとなくわかります。しかし、中には全く想像すらできない名前の生きものもいます。

「オジサン」って、どんな生きものか想像つきますか?

わりと有名なので、ご存じの方も多いかもかもしれません。決して年齢を重ねた男性のことではなく、れっきとしたオジサンという名前の生きもの（もちろん人間のおじさんも生きものです!）。

ちょっと気の毒?なのは、生まれた時からずっとオジサンなこと。赤ちゃんでもオジサン、小さくてもオジサン、メスでもオジサン・・・と、一生ついて回ります。

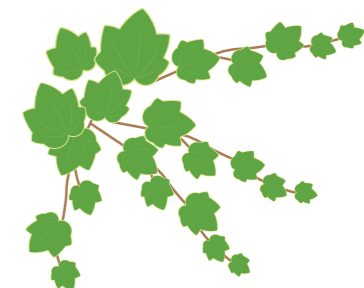
おじさんのような立派なヒゲがある、というのが名前の由来です。しかし、それだけでオジサンというのは、少し気の毒かもしれませんね。

正体不明!? テヅルモヅル

なんだか分からない生きものたちの名前の中でも、極めつけのひとつが「テヅルモヅル」です。

「ツル」と付くので「植物のひとつかな?」と思われがちです。実際の姿も海藻にそっくり! しかしその正体は・・・?

おっと! これ以上はネタバレになってしまいますので、正体はゴビウスの特別展水槽でご覧ください。



(佐々木興)

来場特典 特別展 会場配布 展示ガイドブック「得する? 損する?! ガイドブック」
来館時プレゼント じゃんけんマーク入り「生きものたちのお名前っカード」全6種類!



ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま モクズガニ

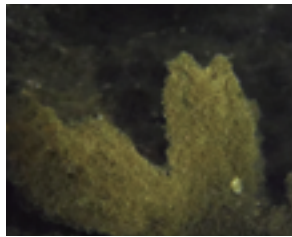
みなさん、モクズガニをご存じでしょうか？「モクズガニ」と間違えて呼ばれることも多いカニですが、ゴビウスでは人気のある生きもののひとつです。ハサミ脚に茶褐色の毛が生えているのが特徴で、「モクズガニ」という名前はこの毛が藻屑に似ていることに由来して名付けられています。甲らの大きさが5～8センチ程度になる中型のカニで、日本各地の河川、汽水域、内湾部などに生息しています。水辺の植物や藻類、水生昆虫、貝や小魚など、さまざまなものを食べる雑食性です。

島根県出雲地方では「ズボデガニ」、石見地方では「ツガニ」という呼び名で食用とされ、重要な水

産資源となっています。そんなモクズガニですが、のんびり屋なのか水槽のすみっこや流木、岩などの陰でじっとしていることがほとんどです。

しかし、エサの時間はすばやくうごきまわります。見た目はかなり武骨なのに、大きなハサミ脚を器用に使って口にエサを運び、ほおぼる姿は何とも言えない愛嬌があります。もし、来館された際にエサを食べていたら、ぜひ観察してみてください。

(原 大和)



ハサミ脚と藻屑



モクズガニ

淡水のなかま ニホンアカガエル

ニホンアカガエルは、とがった鼻先が特徴的な赤茶色のカエルです。1月から4月に繁殖期をむかえ、本州に生息するカエルの中ではもっとも早い時期に産卵します。これは冬の寒い時期は捕食者であるヘビなどが活動しておらず、卵やオタマジャクシが生き残りやすくするためと考えられています。

あそびっ湖まなびっ湖ひろばで展示しているニホンアカガエルは、昨年の初夏にため池の近くで元氣よく跳ねていたものを採集しました。ゴビウスに来たばかりの頃は、2センチほどで、とても小さく華奢な体をしていました。

若いカエルの飼育は手がかかります。水入れて



採集直後のニホンアカガエル

おぼれることがあるので、自力で出入りができるように、水の深さを調整して、おぼれていないか何度も確認しました。また、成長期には毎日欠かさずに生きた小さな虫を与える必要があります、その虫を準備するのにたいへん苦勞します。そんな飼育スタッフの苦勞はつゆ知らず、あっという間にペロリと平らげてしまいます。すくすくと成長した今では、水槽の中で堂々とした姿を見せてくれますので、ぜひ見に来てください。

(梅原里歩)



現在のニホンアカガエル

しまねの水辺紀行 ⑥0 水母紀行

日本海や地中海に出かけたときに、つい探してしまうのがクラゲの姿です。ゴビウスでは周辺で見られるクラゲを展示しているため、水辺ではその姿を探すのが癖になっています。クラゲなんてどこにでもいると思われがちですが、季節や場所によって見つけられるものが変わってきます。コロナ禍で飼育スタッフの自然探索の機会が増えたこともあり、うれしい出来事がいくつかありました。

1つ目が念願の小さなアカクラゲが採集できたことです。地中海では、水槽の中で飼育できる大きさの元気なアカクラゲを見つけることが難しく、毎年展示をあきらめていました。しかし今年は理想の大きさのクラゲを5匹見つけ、館内で展示することができました。



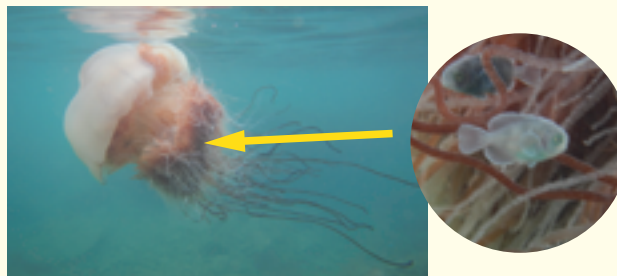
ひしゃくですくったアカクラゲ

2つ目がタコクラゲの大発生です。探しても見つからない年もあれば、写真のように大群で現れたりする気まぐれなクラゲです。今年は条件が整ったのかたくさんタコクラゲが出現した貴重なタイミングに遭遇することができました。



タコクラゲの大発生！？

そして、3つ目がタコクラゲと一緒に流れてくることの多い、エチゼンクラゲとの出会いです。肉厚な体は何度見てもギョッとしてしまいます。大きく厄介な生きものとされますが、漂流物の少ない日本海ではよく観察してみると小魚のゆりかごとして活躍していました。



エチゼンクラゲ登場

今季はまだまだ珍しいクラゲとの出会いがあるかもしれません。寒さに負けず、海に出かけるのも良いかもしれません。

(仲波友美)

シャッターチャンス!

ハゼのなかまのドロメは、腹びれが吸盤のようになっていて、石などに張り付くことができます。

ある日、ヘルメット水槽の顔を出す部分に張り付いていました。普段は見えないアングルから観察することができました。

(坂本 脩)





オヤニラミは、流れの緩やかな河川や小さな支流にくらす淡水魚で、鳥根県では西部の限られた河川に生息しています。河川改修などによる生息環境の悪化や乱獲で絶滅が心配されており、鳥根県の「改訂しまねレッドデータブック2014動物編」では「絶滅危惧Ⅰ類」に選定されています。そのような現状から、邑南町瑞穂地区や吉賀町朝倉地区に生息しているオヤニラミは町の天然記念物に指定され、保護されています。ゴビウスでは、定期的に県内のオヤニラミが生息している場所に出かけて、生息状況の調査をしています。



調査の様子

オヤニラミは別名「ヨツメ」とよばれているように、えらぶたにある眼のように見える丸い模様が特徴的です。この模様がにらみをきかせているように見えることが名前の由来ともいわれています。

野外では単独でくらして、なわばり意識の強い魚です。そのため、複数の個体をひとつの水槽で飼育していると、なかま同士でケンカをしてしまうことがあります。ケンカが始まると、相手が弱るまでやりあう程です。オヤニラミの水槽では、ケンカをしないようにいくつかの工夫が必要です。



えらぶたにある眼のような丸い模様

ひとつは、3匹以上で飼育することです。こうすることで、1匹の魚に意識が集中せず、なわばりを主張しにくくなります。ケンカしやすい魚によく使われる対策方法です。

次に、ケンカを始めたら、強い個体を別の個体と交換して相性を見ます。体の大きさがなるべく近いものを選びます。お互いの力が同等だと分かれば、落ち着くこともあります。



ケンカをしているオヤニラミ

また、水槽のオヤニラミが落ち着けるように、隠れ家となる流木や石、水草などを水槽に多く配置することも大切です。水草は、細長いテープ状で隠れやすそうなものを選んでいきます。オヤニラミも気に入ってくれたようで、隠れ家として使ってくれています。



隠れ家の筒にかくれるオヤニラミ

隠れ家を工夫した現在は、オヤニラミたちも落ち着いているので、このままケンカをせず、健やかにくらし、来年も繁殖してくれることを願うばかりです。

(森永和希)

こらまたなんだら! 其の二十三 冬のアマガエル

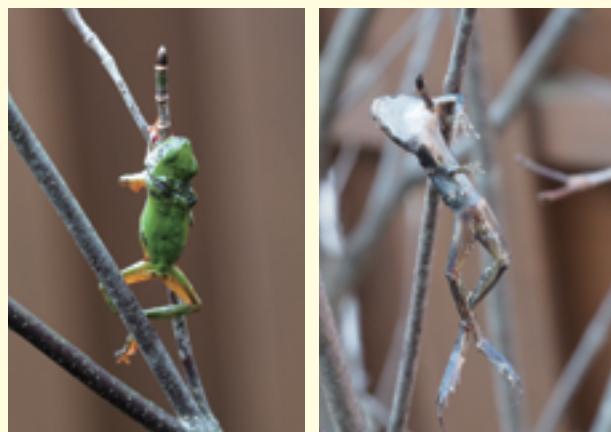
田んぼや畑に囲まれていることもあり、自宅周辺にはたくさんのカエルたちがやってきます。トノサマガエルやツチガエル、アマガエル、シュレーゲルアオガエルなど、季節や天候にあわせて姿を見せてくれたり、鳴き声を聞かせてくれたり、ととてもにぎやかです。なかでも圧倒的に数が多いのがアマガエル。庭先だけでなく、高い木のてっぺんからも、鳴き声が聞こえてきます。特に、初夏になると光に集まる虫を食べに来るのか、十数匹のアマガエルが壁一面に張り付いていることもしばしばです。また、数が多いだけでなく「これが同じ種類?」と思えるほど、体の色のバリエーションが豊富なもの、このカエルの魅力のひとつでしょうか。



ニホンアマガエルの色いろいろ

そんなカエルたちも、秋が深まってくると、めっきり姿を見かけなくなります。代わって目につくようになるのが、モズに捕えられ、木の枝先に

突き刺されて「はやにえ」となったカエルたち。周辺にはいろいろな木があり、あちらこちらに「はやにえ」は見られるのですが、ある1本のヤマボウシにだけは、毎年、きまって数匹のアマガエルがぶら下がっています。場所が良いのか、はたまた枝の角度や尖り具合が、獲物を突き刺すのにちょうど良いのかわかりませんが、この木に「はやにえ」を見つけると、いよいよ冬の到来です。日々、冷たい風に



速贅 (はやにえ)

さらされ、カラカラに干からびていくカエルの姿とは対照的に、ヤマボウシの枝先は、芽吹きに向けた準備を着実に始めています。来年もカエルたちのにぎやかな声が聞けることを楽しみにしています。

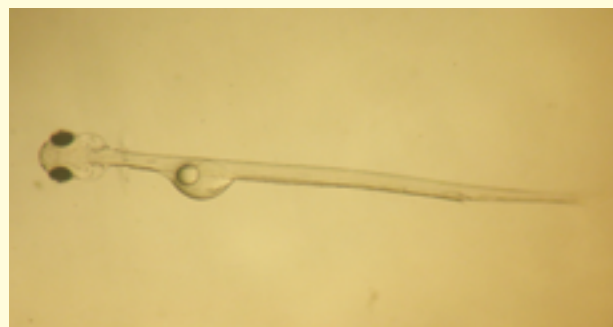
(中畑勝見)

表紙の生きもの ワカサギ *Hypomesus nipponensis*

汽水域や河川、湖に生息し、凍った湖上での穴釣りで有名な魚です。宍道湖七珍のひとつですが、近年、数が激減し、宍道湖では滅多に姿を見ることができない幻の魚となっています。

体はやや細長く、背びれと尾びれの間小さな「あぶらびれ」があります。大きさは12センチ前後で、動物プランクトンなどを食べます。体色がアメのような光沢のある色をしていることから、山陰では「アマサギ」という地方名で親しまれています。寿命はおよそ1年ですが、なかには2年生きるものもいます。冬から春にかけて、砂地に産卵します。

現在展示しているワカサギは、島根県水産技術センター内水面浅海部の協力のもと、今年の2月



ふ化したばかりのワカサギの仔魚

下旬に卵からふ化し、育てたものです。ふ化したばかりの仔魚は、およそ6ミリととても小さかったのですが、10月現在7センチと大きくなりました。今後の成長が楽しみです。

(高橋由也)

今後のイベントについて

新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延を受け、昨年度末から観察会やイベントを自粛してきました。

県内の新型コロナウイルス陽性者の人数が比較的少なく推移していること、国や県の指針に従って観察会等のイベントが再開できる目処がたったことにより、人数や開催時間を制限しながら徐々に観察会等を再開することにいたしました。

10月の観察会は約半年ぶりの開催にもかかわらず、すぐに定員に達する申し込みがありました。今後のイベントもお楽しみに！

(中野浩史)



観察会の様子

ゴビウス生きもの観察会に参加しませんか？

1/24 日曜日 10:00~11:00 受付開始 **1/10**

チリメンモンスターをさがせ！

チリメンモンスターは、チリメンジャコの中にまぎっているタコやカニなどの子どものこと。探して、調べてオリジナルカードをつくらう！

2/14 日曜日 10:00~11:00 受付開始 **1/31**

紙粘土でアートな魚をつくろう！

紙粘土をつかって、世界でひとつだけの芸術的な魚をつくってみよう！きみはかわいい派！？かっこいい派！？

3/7 日曜日 10:00~11:00 受付開始 **2/21**

シラオ博士になろう！

穴道湖七珍のひとつのシラオには、どんなひみつがあるかな？体の形やオスとメスの違いを観察してみよう！

定員 申込先着 **6** 家族 (20名程度) 対象 **どなたでも** (小学生以下は保護者の参加も必要)

お問い合わせお申し込みは **TEL 0853-63-7100**

開催2週間前から電話にてお申し込みください。
※定員になり次第締め切りとさせていただきます。
※各観察会についての詳細は各観察会チラシでご確認ください。
※観察会情報はホームページでもご覧いただけます。

生きもの情報発信中だよ！ <http://www.gobius.jp/>

2021年
1月1日から
開館します！



2020年12月28日から、
12月31日は休館日です。

新春恒例展示
ギュ〜っと小さな企画展
「干支水族館」



開催期間
2021/1/1 (祝)~1/18 (月)

ことしモ〜ッ
よろしく！
うしどしうしど
丑年水槽

干支にちなんだ水槽だよ〜！
どんなウシかな？!



ご来館案内

- 入館料/大人…500円(400円)
小中高生…200円(160円)
※()内は団体20名様以上の料金
- 年間パスポート/大人…1,400円
小中高生…500円
ご家族で同時にご購入いただくと2割引になります。
大人1,120円、小中高生400円。
※割引の適用は同居のご家族に限ります。他の割引との併用不可。
- 開館時間/9:30~17:00(最終入館は16:30)
- 休館日/火曜日、年末(12月28日~12月31日)
※火曜日が祝日の場合は、その翌平日が休館日となります。

みなさんのご来館
お待ちしております。



- 一畑電車湖遊館新駅より徒歩10分
- 出雲空港より車で10分
- 山陰道穴道インターより車で15分
- 駐車場/100台(無料・トイレ完備)

ゴビウスニュースレターしまねっ湖 No.69

発行日/令和2年12月10日
発行/島根県立穴道湖自然館ゴビウス(管理運営:ホシザキグリーン財団)
〒691-0076 島根県出雲市園町1659-5
TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101
URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示
氏名または名称:公益財団法人ホシザキグリーン財団
事業所の名称:島根県立穴道湖自然館
動物取扱業の種別:展示
登録番号:第073102040号
登録年月日:平成19年5月17日
登録有効期限:平成34年5月16日
取扱責任者:中野浩史